

令和6年度 1年次生 学びのプラン

教科名	国語	単位数 (コマ数)	3単位	履修年次	1年次		
科目名	言語文化	履修	必修	開講	通年		
教科書	高等学校 精選 言語文化(第一学習社)	副教材	「わかる・読める・解けるKey&Point古文単語330」四訂版 (いっずな書店) 「体系古典文法」九訂版 (数研出版) 「漢文学習必携」三訂版増補版 (京都書房)				
1 学習の目標							
伝統的な言語文化に対する理解を深め、言語活動を通して論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸長し、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら適切かつ効果的に表現する能力を育成する。							
2 学習の方法							
①授業について 授業は週3コマで、講義形式の他、ペアワーク・グループワークなど適宜実施する。 ②クラスについて 授業はHR単位で行い、内容によっては特別教室を使用する。 ③ノートについて 専用のノートを用意し、板書やメモを各自で記録・整理すること。 配布されたプリント類は、ファイルを準備して綴じ込み整理すること。 ④小テストについて 古文単語や単元の内容について、理解の定着を確認するため、適宜実施する。 ⑤授業の際に必要な物 教科書・ノート・ファイルを毎時間用意する。副教材については別途指示。 PC・タブレット等を必要に応じて使用する。							
3 評価について							
①評価の観点							
知識・技能		・我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、必要な国語の知識や技能を身に付け、他の学習や社会生活に活用することができる。					
思考・判断・表現		・課題に対して情報を収集、分析し、身に付けた知識や技能と関連付けながら、他者との関わりの中で考えを深め、論理的に表現することができる。					
主体的に学習に取り組む態度		・課題を解決するために、主体的かつ協働的に取り組み、自らの学習状況を把握した上で試行錯誤しながら学び続けることができる。					
②評価の方法							
観点	材料	定期 考査	小 テスト	課題	ワーク シート	グループ ワーク	評価方法
知識・技能		○	○	○			単元ごとに身に付けなければならない知識や、それを活用して答える技能を、考査等によって評価する。
思考・判断・表現		○	○	○	○	○	課題に対しての情報の収集と分析、導かれた結論に至る論理的思考力、発表時の表現力を評価する。
主体的に学習に取り組む態度			○	○	○	○	授業及び課題、ワークシート、グループワーク、発表等における主体的・協働的取り組みを評価する。
4 その他							
○ 主体的に学習に向かう姿勢を求めます。「教えられる」ではなく、「学ぶ」よう努めてください。 ○ 「知識」を「活用」して「自ら考える」学習をしてください。							

単元の目標・評価										
科目名	言語文化		単元名	古文入門						
単元の目標	わが国の言語文化への理解を深めるために、歴史的仮名遣いや品詞等、文語のきまりについて理解する。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	古典の世界を理解するために、必要な品詞や文語のきまり、特有の表現などについて理解を深めている。			内容を的確に解釈し、作品に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめることができる。			高校での古文学習に見通しを持ち、我が国の言語文化への興味・関心を深めようとしている。			

科目名	言語文化		単元名 随筆(一)							
単元の目標	随筆という文章の特徴を捉え、作者の感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能				思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	用言について習熟するとともに、基本的な助動詞の用法について理解している。				類聚的章段を通して当時の人々の感覚や興味の対象について知り、ものの見方・考え方を理解している。			進んで随筆の特徴を理解し、学習の見通しを持って取り組んでいる。		

科目名	言語文化	単元名	漢文入門							
単元の目標	我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能				思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	漢文と日本語の構造の違いと、訓読のためのきまりを理解し、正しく音読したり書き下したりすることができる。							高校での漢文学習に見通しを持ち、我が国の言語文化への興味・関心を深めようとしている。		

科目名	言語文化	単元名	故事成語							
単元の目標	漢文の訓読に慣れるとともに、古典の言葉と現在使われている言葉にはつながりがあることを知る。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能				思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	基本的な句法を理解し、正しく書き下し現代語訳することができる。				故事成語の意味を、文章の内容を踏まえて考え、自身の文章の中に生かすことができる。			進んで寓話の特徴を理解し、他の故事成語についても知識を広げようとしている。		

科目名	言語文化 単元名 随筆(二)									
単元の目標	『枕草子』とは異なる随筆を読んで、作者の批評的精神が提示する事柄について理解する。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能				思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	既習の助動詞について習熟するとともに、推量系の助動詞の用法について理解している。				『枕草子』とは異なる作者のものの見方・考え方を理解し、まとめることができる。			進んで中世の価値観を理解し、自分のこととして主体的に考えようとしている。		

科目名	言語文化	単元名	史伝							
単元の目標	史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた登場人物の考えや人物像を読み取る。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	句法についての知識を増やし、正しく書き下し現代語訳することができる。			当時の時代状況や本文から得られる情報を整理し、登場人物の考えや心情を考えることができる。			本文の内容を整理し、意見・疑問を積極的に考えようとしている。			

科目名	言語文化	単元名	歌物語								
単元の目標	話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴や登場人物の心情を理解する。										
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力	
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	既習の助動詞について習熟するとともに、副詞や助詞、和歌の修辞について理解している。			歌物語における和歌の位置づけを理解し、本文の叙述をもとに解釈した上で、登場人物の心情を考えることができる。				進んで歌物語の特徴を理解し、文学史的な知識を広げようとしている。			

科目名	言語文化	単元名	漢詩							
単元の目標	表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、自然や人事に向けた人々の思いを読み取る。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	近体詩のきまりについて理解している。作品の歴史的・文化的背景や詩人についての知識を深めている。			限られた字数で表現された内容を、状況や作者の思いを補いながら読み詩の世界を広げることができる。			進んで詩の解釈に取り組み、自分のこととして作者の思いを読み取ろうとしている。			

科目名	言語文化	単元名	小説(一)『羅生門』							
単元の目標	下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能				思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	小説の読解に必要な用語と定義を理解し、活用して読むことができる。 常用漢字、語彙、文学史等について理解し、活用、説明することができる。				典拠となった『今昔物語集』の説話と読み比べたり、作者について調べたりしながら、作品の主題を論理的に思考・判断し、表現することができる。			登場人物の行動や心理を読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 作品の主題について情報を収集・分析し、論理的説明ができるようにしている。		

6		年間計画				
学期	月	単元	項目	予定 時数	考査	テ ス ト
前期	4	古文入門 ○古文を読むために1～3 ○『宇治拾遺物語』 児のそら寝	○五十音図、歴史的仮名遣い ○単語、文節、十品詞 ○動詞の活用	6	前期 中間 考査	校 内 実 力 テ ス ト ①
	5	古文入門 ○『宇治拾遺物語』 絵仏師良秀 ○『竹取物語』 なよ竹のかぐや姫	○形容詞、形容動詞の活用 ○接続助詞「ば」 ○係り結び ○説話と伝奇物語	18		
	6	随筆(一) ○『枕草子』 はしたなきもの	○三大随筆 ○助動詞①(過去、完了、打消、断定)			
	7	漢文入門 故事成語 ☆漢文を読むために1～5 ☆『戦国策』 漁父之利	☆漢文の基本構造 ☆返り点、置き字、再読文字 ☆否定形、禁止形 ☆疑問形、反語形	9	前期 期 末 考 査	校 内 実 力 テ ス ト ②
	8	故事成語 ☆『戦国策』 蛇足 狐借虎威	☆使役形	7		
後期	9	随筆(二) ○『徒然草』 丹波に出雲といふ所あり 花は盛りに	○助動詞②(使役、受身) ○助動詞③(む、べし、じ、まじ)	23	後 期 中 間 考 査	校 内 実 力 テ ス ト ③
	10	史伝 ☆『十八史略』 完璧	☆受身形、願望形			
	11	史伝 歌物語 ☆『十八史略』 先従隗始 ○『伊勢物語』 芥川	☆抑揚形、比較形 ○呼応の副詞 ○副助詞 ○和歌の修辭	12		
	12	漢詩 ☆唐詩の世界 春暁 静夜思(五言絶句) 送元二使安西(七言絶句) 八月十五日夜(七言律詩)	☆漢詩のきまり	10	後 期 期 末 考 査	
	1	小説(一) ◇『羅生門』	◇小説読解に必要な語彙や表現を手がかりに、登場人物の心情を把握する。	20		
	2		◇「今昔物語」の説話と読み比べたり、作品を論理的に読み協同的に学習する。			
	3					